

平成30（2018）年度 事業活動報告・活動計算書

（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）

認定特定非営利活動法人 全国盲導犬施設連合会

事業活動結果



「ともに生きる、ともに歩む」を共通の理念に、視覚障害者が盲導犬を使用し自立と社会参加を図れるよう、全国の盲導犬訓練法人施設の連合体として、広く盲導犬の普及啓発、相談、盲導犬無償貸与への助成等を実施した。

1. 普及啓発事業

- 1) 広報誌デュエット28号15万部、ポスター6千枚を作成配布、並びに店舗等の入口に貼っていただく補助犬同伴可ステッカーを配布した。
- 2) 視覚障害者向け盲導犬情報（点字版、墨字版、CD版）を2回（9月21号、3月22号）発行し、盲導犬ユーザー、点字図書館、盲導犬育成施設、都道府県視覚障害者担当部局などに配布した。
- 3) 盲導犬受入促進に向け、適宜盲導犬ハンドブックを配布した。
- 4) 啓発イベント（盲導犬ふれあい教室等）を全国で合計39回実施した。
- 5) パトラッシュ基金では、募金箱設置企業でのイベント、また例年どおりベルギー・フランダース政府貿易投資局の協力によるイベントでの募金活動を行った。
- 6) 連合会オリジナル盲導犬カレンダーを例年通り作成し、寄付者や関係各所へ配布し、盲導犬事業への理解と継続支援、また普及に努めた。



2. 相談室事業

- 1) 盲導犬貸与希望、入店拒否、使用者相談、事業者・市民からの相談など154件の受付対応を行い、加盟施設と協力して具体的な解決を図った。
- 2) 盲導犬ユーザーによる犬の不適正使用の目撃クレーム通報について、苦情解決対応フローチャートに沿って各施設と連携して迅速に調査し、その結果を回答するなど丁寧に説明し、盲導犬に対する理解を図った。
- 3) 連合会事務局へ直接クレーム連絡があり、調査しても所属不明なユーザーについては、当該地の行政窓口へ報告した。



3. 資格認定事業

- 1) 訓練士7名、歩行指導員3名の計10名を、資格認定審査要綱に則り、以下のとおり知識・技能を確認し、資格を認定した。
 - ・学科修得確認テストを各施設で8月と1月に実施
 - ・実技審査会を、2月の盲導犬育成ジャパンセミナー会場施設にて開催
 - ・盲導犬歩行指導員受験者面接を3月に実施
 - ・資格認定委員会を、4月、10月、12月、3月の4回開催
 - ・理事会に本年度資格認定者付議 3月
- 2) 資格認定審査要綱について①実技審査申込時における学科目修得状況、②学科修得確認テストの時期、③スクーリング、④審査申込時期について、見直しを行った。

4. 研修事業

- 1) 資格認定審査申込者を対象にしたスクーリングについては、盲導犬育成ジャパンセミナーのプログラムに組み込み、歩行指導員受験者は研究発表を、訓練士受験者はセミナー全期間参加により研修修得とした。
- 2) 加盟施設職員交流事業は、本年度3事業「①盲導犬パピープログラム、②盲導犬育成プログラム、③ファンドレイジング」を実施した。



5. 使用者団体との相互協力事業

全日本盲導犬使用者の会(全犬使会)総会及び交流会（埼玉大会）へ近隣盲導犬育成訓練施設職員、連合会職員を派遣しサポート協力した。

6. 情報交換及びネットワーク構築事業

- 1) 各訓練施設の責任者全員による運営委員会を4回開催し、盲導犬の育成訓練と普及、事業に係る諸課題について協議した。
- 2) 2月6日～7日の2日間、第4回盲導犬育成ジャパンセミナーを(公財)日本盲導犬協会神奈川訓練センターに於いて開催した。

- 3) 平成29年度（2017）盲導犬訓練施設年次報告書「(社福)日本盲人社会福祉施設協議会編」の印刷と関係部署へ発送を行った。
※平成31年3月末日現在、国内の盲導犬実働数は928頭。国内の盲導犬育成訓練指定法人全11団体が平成30年度中に育成した盲導犬の頭数は130頭。内訳は、新しく盲導犬ユーザーのパートナーとなった盲導犬は46頭、2頭目以降の代替犬は84頭。
- 4) ANAによる盲導犬割引輸送協力利用の実績は24回であった。
- 5) 日本自動車販売協会連合会（自販連）盲導犬公益信託にかかる盲導犬無償貸与助成について、本年度は5頭を推薦し、それぞれ助成を受けた。但し1頭は年度内貸与が間に合わなかったため完了分は、次年度貸与後に助成することとした。
- 6) 8月23日、国主催で行われた2020オリパラ関係「海外から渡航してくる補助犬使用者への対応等に関する説明会」に出席し、対応ガイドラインなどについて、説明会概要まとめ配布資料とともに加盟施設へ情報提供を行った。

7. 財政基盤支援事業

盲導犬の無償貸与と促進を図るため、加盟施設が実施する盲導犬無償貸与にかかる費用の一部助成（1頭200万円）について、希望する視覚障害者に連合会助成として合計で盲導犬10頭分、連合会「特定資産積立金」取り崩し補助による盲導犬無償貸与として、本年度は8頭分（1頭200万円）、合わせて18頭（3600万円）の助成・補助を行った。

8. 調査研究事業

- 1) AGBN「Asia Guide dogs Breeding Network」と連携し、盲導犬改良システムを推進する情報共有を行った。
- 2) 施設と協力して「盲導犬訓練施設のユーザーサポートに関するアンケート」を行い、その結果を各施設にフィードバックした。
- 3) 日本ロービジョン学会主催のAMED研究「大規模災害時における視覚障害者対応システムの構築に関する研究」に運営委員を派遣し報告を共有した。

9. 国際交流事業

9月にオーストラリア シドニー市で開催した国際盲導犬連盟（IGDF）のセミナーへ、連合会として各施設からの推薦職員6名を派遣し、更に派遣職員向けにセミナー会場での同時通訳の費用補助を行った。また、参加者からのレポートをまとめ、報告書を作成した。

10. 顕彰事業

本年度は行わなかった。

活動計算書		(単位：円)
1) 収益の部		
大科目	中科目	決算額
受取会費	正会員受取会費	800,000
	計	800,000
受取寄附金	個人寄附金	13,604,766
	団体・法人寄附金	6,111,883
	特別寄附金	13,104,429
	募金	50,265,230
	その他募金	5,285
	計	83,091,593
その他収益	受取利息	22,540
	ステッカー収入	10,000
	指定正味財産振替額	16,000,000
	計	16,032,540
経常収益計		99,924,133
2) 費用の部		
大科目	中科目	決算額
事業費	人件費	21,153,292
	普及啓発事業費	10,029,672
	相談室事業費	807,539
	資格認定事業費	907,386
	研修事業費	878,381
	使用者団体相互協力事業費	239,738
	情報交換・ネットワーク事業費	3,368,500
	財政基盤支援事業費	36,004,320
	調査研究事業費	146,752
	国際交流事業費	2,059,131
	顕彰事業費	0
	計	75,594,711
管理費	人件費	5,286,215
	その他管理費	4,974,095
	計	10,260,310
経常費用計		85,855,021
当期経常増減額		14,069,112